
プリンタドライバ説明書
*Windows NT*版

目 次

はじめに.....	1
1. Windows NT 用プリンタドライバについて	2
2. 「プリンタ」	2
3. 「用紙」	3
4. 動作モード.....	5
5. デバイスの設定.....	6
6. クリエイトフォント.....	7
7. ユーティリティ.....	10
8. サトー専用ポートの追加設定手順.....	11
8-1. サトー専用ポートの追加手順.....	11
8-2. サトー専用ポート設定手順.....	13

はじめに

本書で説明しているプリンタドライバ画面は、Petit Lapin シリーズを使用しています。
なお、WindowsNT4.0 は、マイクロソフト社のサポートが終了しておりますので、プリンタドライバは提供いたしますが、サポートは行いませんので、ご了承ください。

1. Windows NT 用プリンタドライバについて

Windows NT 用 Petit Lapin シリーズのプリンタドライバは、「ドキュメントの規定値」として独自に「プリンタ」、「用紙」、「動作モード」、「デバイスの設定」、「クリエイティブフォント」、「ユーティリティ」の6個のタブを所有しており、各タブにおいて様々な設定が可能です。

ドキュメントの規定値を設定する為には、図1に示すように「プリンタ」フォルダの中にある、PT200e プリンタを選択し、「ファイル(F)」->「ドキュメントの規定値(L) ...」メニューを選択するか、右クリックして「ドキュメントの規定値(L) ...」メニューを選択してください。



プリンタの名称はドライバセットアップ時に任意に設定できます。
デフォルト指定では、PT200e は「SATO PT200e」です。

図1. 「プリンタフォルダ」画面

注意) 「ドキュメントの規定値」で設定可能な項目には、「プリンタ設定ツール」で設定可能な項目と重複するものがありますが、プリンタドライバを使用して印字を行う場合は「ドキュメントの規定値」での設定が有効となります。またアプリケーションソフトの印刷ダイアログから呼び出すプロパティでは、一時的な設定変更を目的としており、機能も限定されています。

2. 「プリンタ」

図2に「プリンタ」画面を示します。ここではドライバのバージョン情報が表示されます。



図2. 「プリンタ」画面

3. 「用紙」

図 3-1 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

(1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(5)「用紙登録」により登録してください。

(2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。

(3) 印字以外の基点を補正します。通常は0です*。

(4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。

(5) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 3-2 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。

(6) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（「フリーサイズ」の設定値は適用できません）。

(7) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。

(8) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 3-3 に示す画面が表示されます。

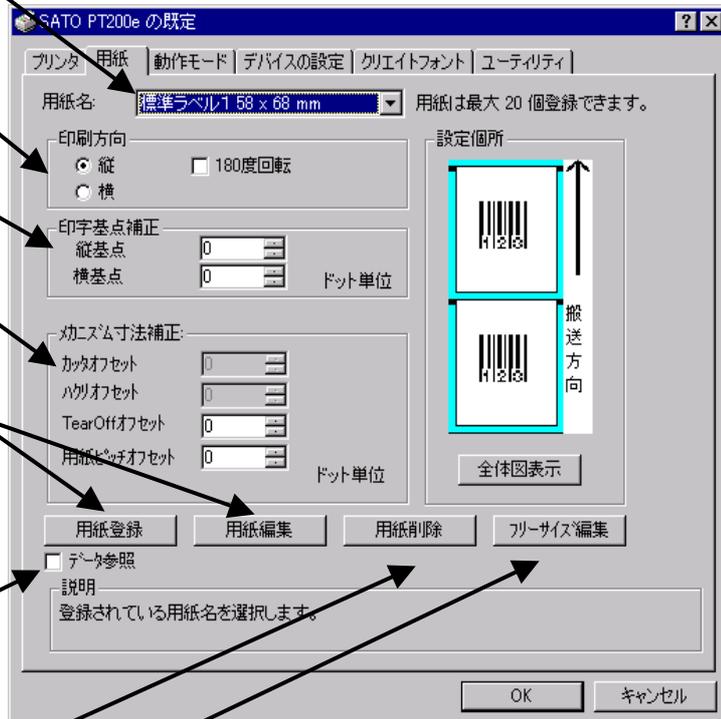


図 3-1. 「用紙」画面

(9) 登録する用紙の名称を設定します。

(10) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。

(11) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。

(12) 設定する各項目の単位を設定します。

(13) 登録する用紙のサイズを設定します。
*「ギャップサイズ」は通常3.0(mm)です。

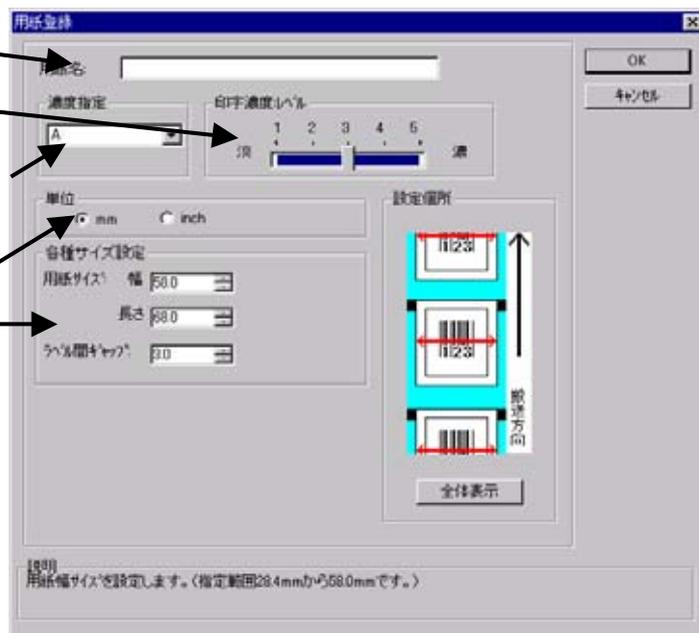


図 3-2. 「用紙登録」画面

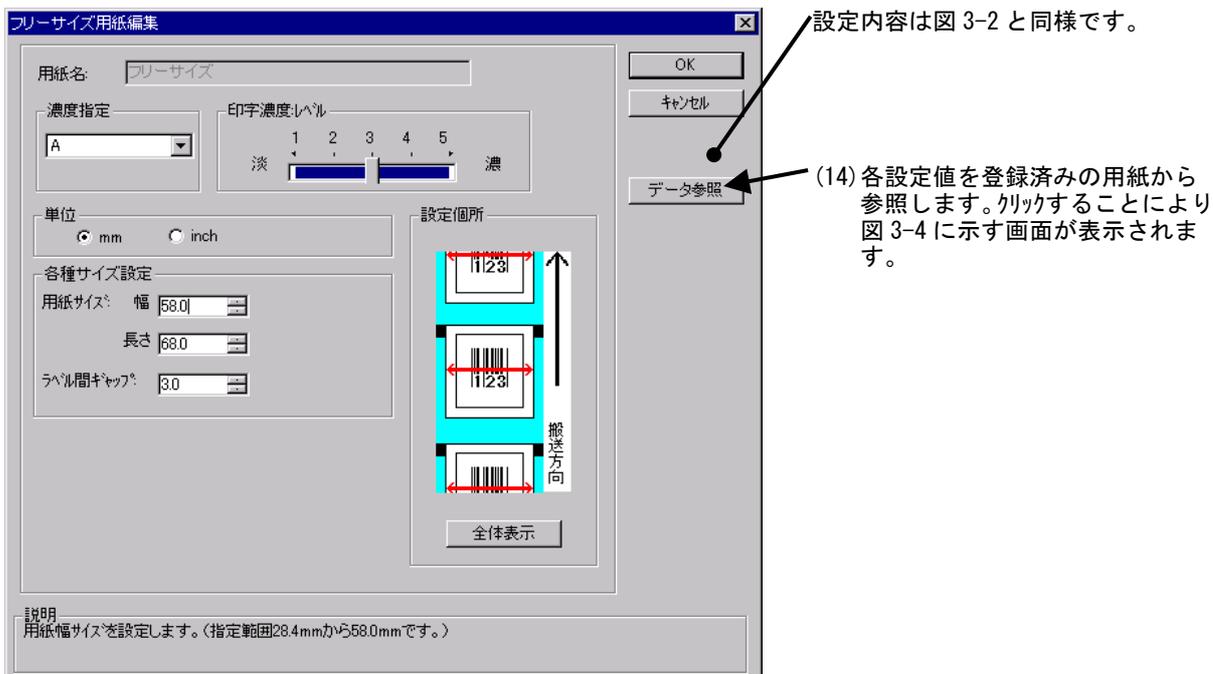


図 3-3. 「フリーサイズ用紙編集」画面

(15) 設定値を参照する用紙を選択します。

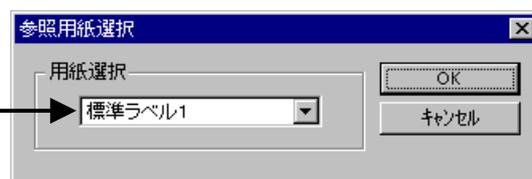


図 3-4. 「参照用紙選択」画面

4. 動作モード

図4に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) 文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。

(2) 文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。

(8) 印字速度を選択します。90度回転のバーコードや罫線などの印字レイアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。

(11) 通信制御設定を指定します。

同期通信印刷
チェックBOXにチェックすることで同期通信印刷になります。

(4) 濃淡印字を行いません。

(5) 写真等を印字する場合に指定します。

(6) 写真等を印字する場合に指定します。

(7) 濃淡の境界がはっきりした行スト等を印字する場合に指定します。

(9) センサ種別を選択します。

(10) 動作モードの選択を行います。

図4. 「動作モード」画面

※同期通信印刷

ラベルの印字完了を1枚（1アイテム）ごとに確認しながら出力します。

5. デバイスの設定

図5にデバイスの設定画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) (2)の「情報取得」により取得したプリンタの設定を表示します。リストから設定を選択することにより一時的に設定を変更することも可能です。ただし、プリンタ本体のDSWが有効になります。

(2) 接続されているプリンタの情報を取得します。

(3) 接続されているプリンタのファームウェア情報を取得します。

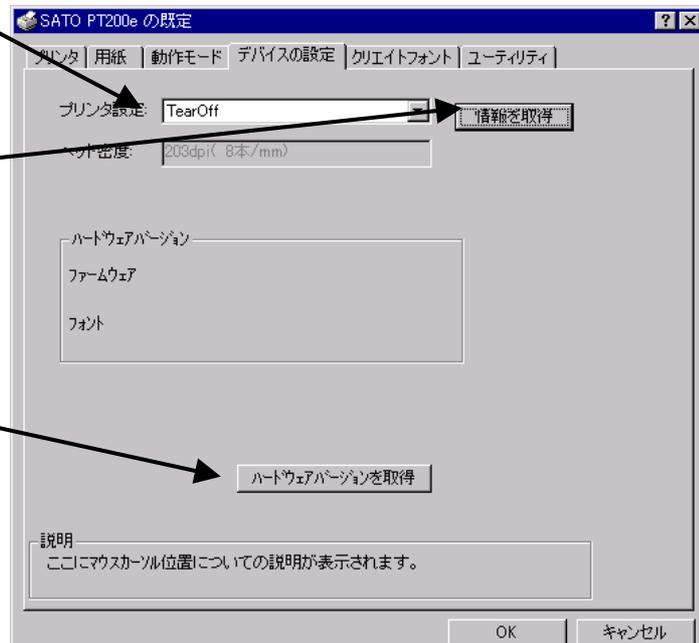


図5. 「デバイスの設定」画面

6. クリエイトフォント

図 6-1 に「クリエイトフォント」画面を示します。ここでは「装飾フォント」と「バーコードフォント」の設定を行います。

「装飾フォント」とは、レジデントフォントに対して倍率や回転角度、連番機能等を任意に設定し、それらの設定を反映させた状態のフォントを1つのフォントとして登録したものです。アプリケーションソフトの書類上にデータを入力し、そのデータのフォントを装飾フォントにすることにより、印字結果には倍率や回転角度、連番等の設定が反映されます（アプリケーションソフトの編集画面上には反映されません）。「バーコードフォント」とは、アプリケーションソフトの書類上に入力したデータのフォントをバーコードフォントにすることにより、印字の際にはそのデータがバーコード化されるというものです。

装飾フォントとバーコードフォントは合計 70 個まで登録可能です。

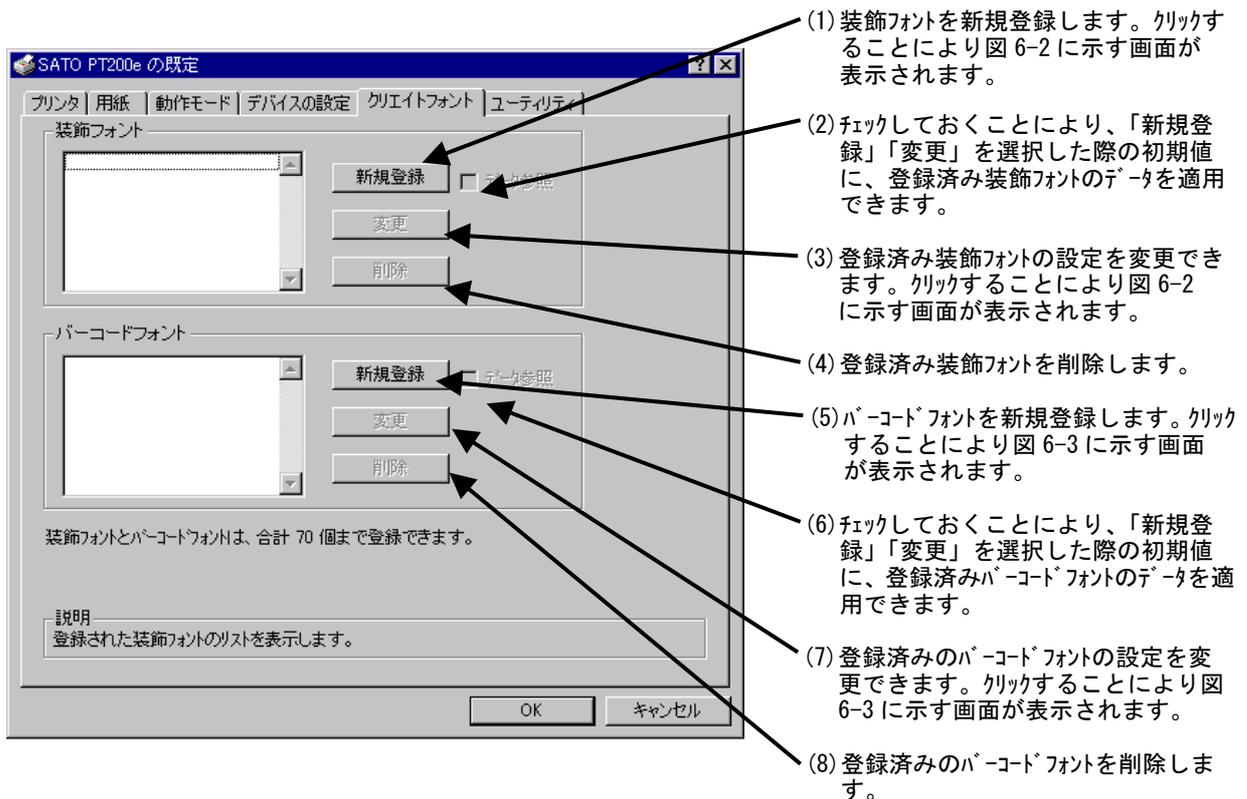


図 6-1. 「クリエイトフォント」画面

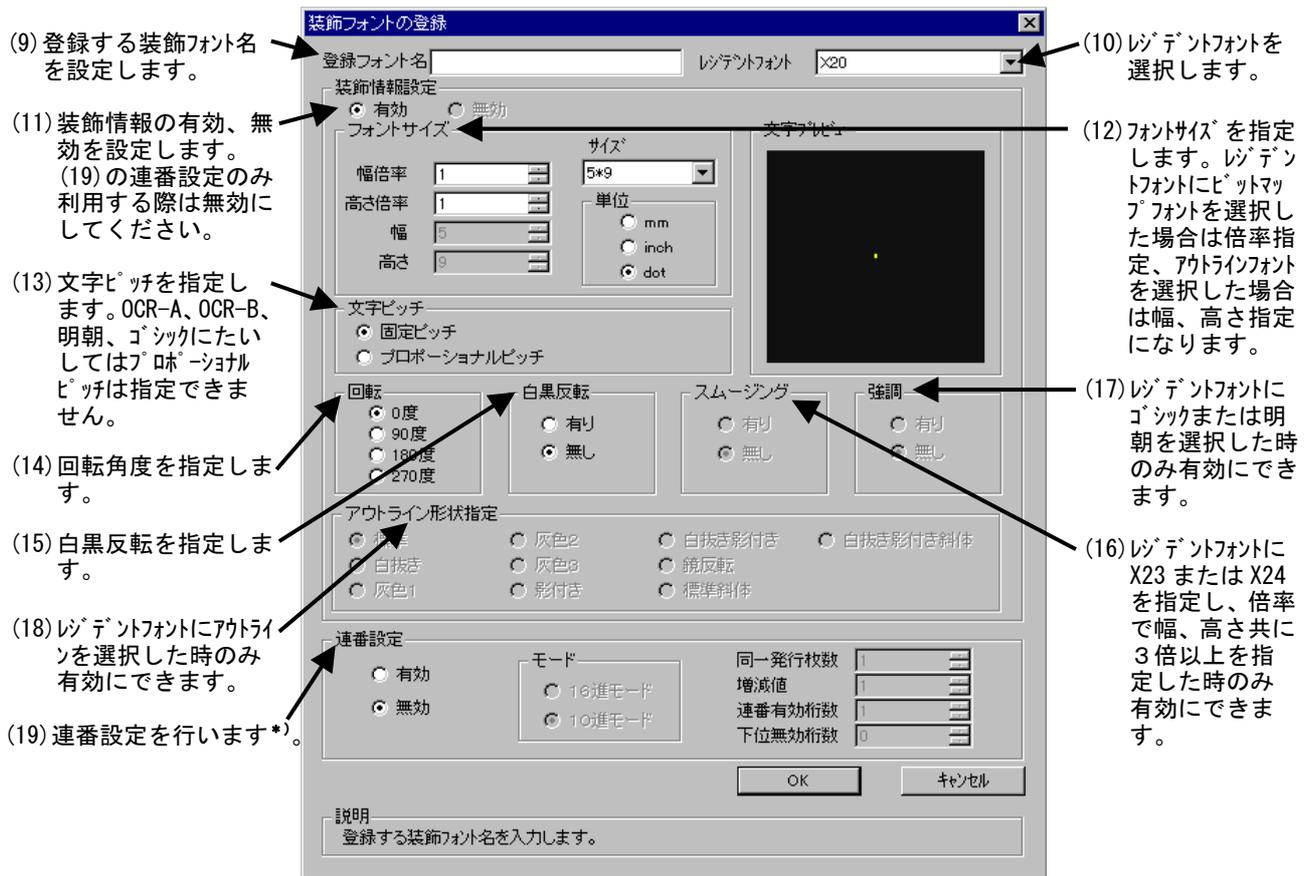


図 6-2. 「装飾フォントの登録」画面



図 6-3. 「バーコードフォントの登録」画面

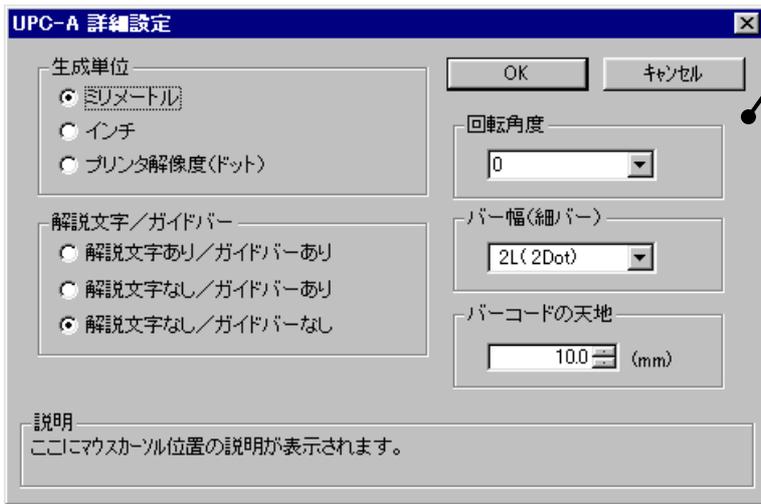


図 6-4. 「UPC-A 詳細設定」画面

図 6-3 の (22) 「バーコード種」で選択したバーコードに対応した詳細設定ダイアログが表示されます。以下に登録可能なバーコードの種類を示します。

- UPC-A
- UPC-E
- JAN-8/ENA-8
- JAN-13/ENA-13
- CODE39
- CODE93
- CODE128
- インターリフト 2of5
- NW-7
- カスタムバーコード
- QRコード (モデル 1)
- QRコード (モデル 2)
- QRコード (マイクロ QR)
- PDF417
- MAXIコード
- データマトリックスコード
- μ PDF417

*) 連番設定例

図 6-2(19)、図 6-3(24)の連番設定における各項目の内容を以下に示します。

- 有効・無効 : 連番設定を有効にするか無効にするか選択します。無効にする際は図 9-2(11)の装飾情報設定が有効になっている必要があります。
- 16進モード・10進モード : 連番の対象を16進数とみなすか10進数とみなすか設定します。
- 同一発行枚数 : 何枚発行する度に連番させるか設定します。
- 増減値 : 連番毎の加算値または減算値を設定します。
- 連番有効桁数 : 連番させる桁数を設定します。
- 下位無効桁数 : 連番させる最小桁以下の桁数を設定します。

モード : 16進モード 同一発行枚数 : 2 増減値 : 5 連番有効桁数 : 2 下位無効桁数 : 3
 印字データの初期値 : 00F8001とした場合
 連番有効桁は図 6-5 に示すようになります。

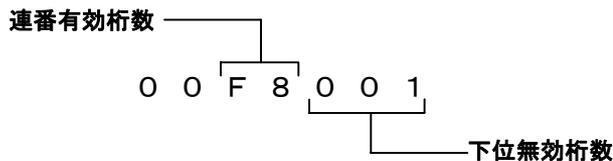


図 6-5. 連番有効桁

連番動作は図 6-6 に示すようになります。

発行枚数	印字データ	
1 枚目	00 <u>F8</u> 00 1	} 同一発行枚数 2
2 枚目	00 <u>F8</u> 00 1	
3 枚目	00 <u>FD</u> 00 1	
4 枚目	00 <u>FD</u> 00 1	
5 枚目	00 <u>02</u> 00 1	
6 枚目	00 <u>02</u> 00 1	
7 枚目	00 <u>07</u> 00 1	
8 枚目	00 <u>07</u> 00 1	

図 6-6. 連番動作

7. ユーティリティ

図7に「ユーティリティ」画面を示します。ここではプロパティの各タブで設定した値をインシヤルファイルとして保存したり、保存されたインシヤルファイルを読み込むことにより、各設定を一括設定することができます。

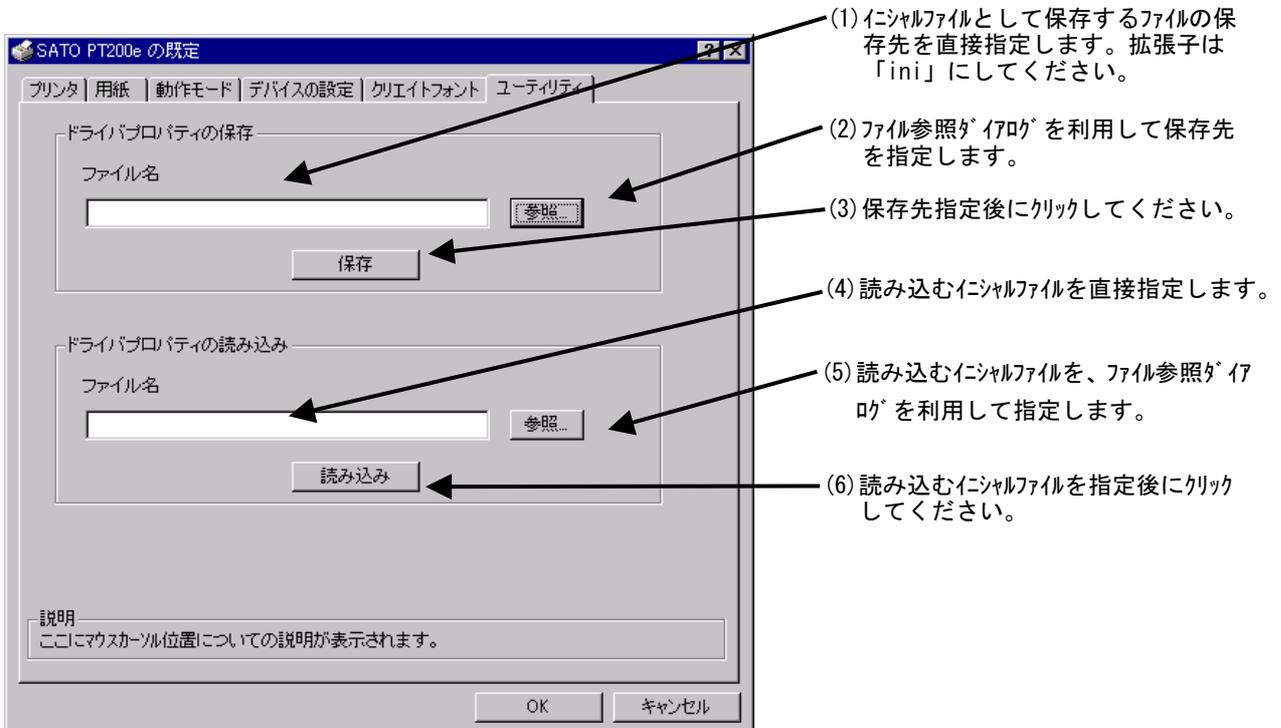


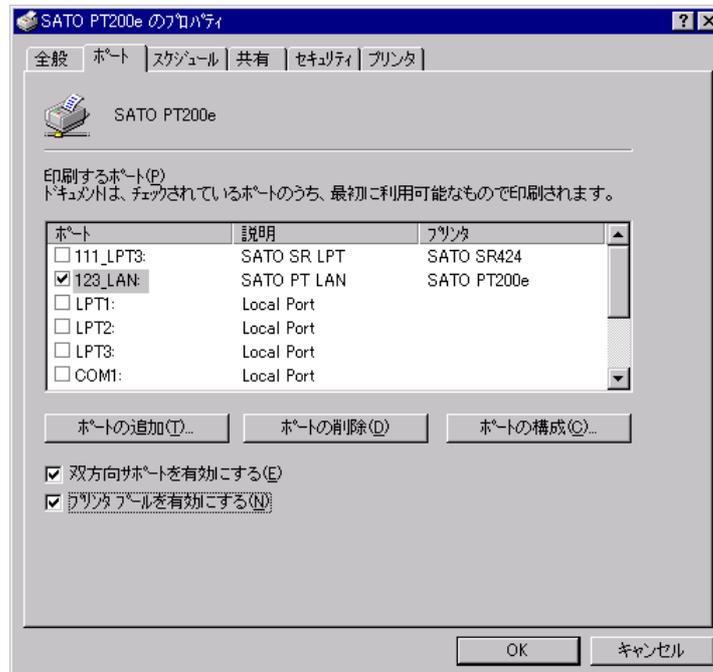
図7. 「ユーティリティ」画面

8. サトー専用ポートの追加設定手順

「印刷先のポート」に「サトー専用ポート」を選択すると、各ポートに対して詳細な設定が可能となります。以下にサトー専用ポートの追加手順と各ポートの設定手順を示します。

8-1. サトー専用ポートの追加手順

図 8-1-1 に「詳細」画面を示します。



- (1) 「ポートの追加(I)...」をクリックしてください。図 8-1-2 に示すダイアログが表示されます。

図 8-1-1. 「ポート」画面

- (2) 「SATO PT ... Port Monitor」の中から、ご使用になる接続先デバイスに対応したものを選択し、「新しいポート(P)...」ボタンをクリックしてください。図 8-1-3～図 8-1-4 に示すように、追加するポートに対応したダイアログが表示されます。

接続先デバイスが COM ポートのとき選択してください。

接続先デバイスが LAN ポートのとき選択してください。



図 8-1-2. 「ポート追加」ダイアログ

①シリアル (SATO PT COM) ポート



図 8-1-3. 「SATO COM ポートの追加」ダイアログ

②LAN (SATO PT LAN) ポート

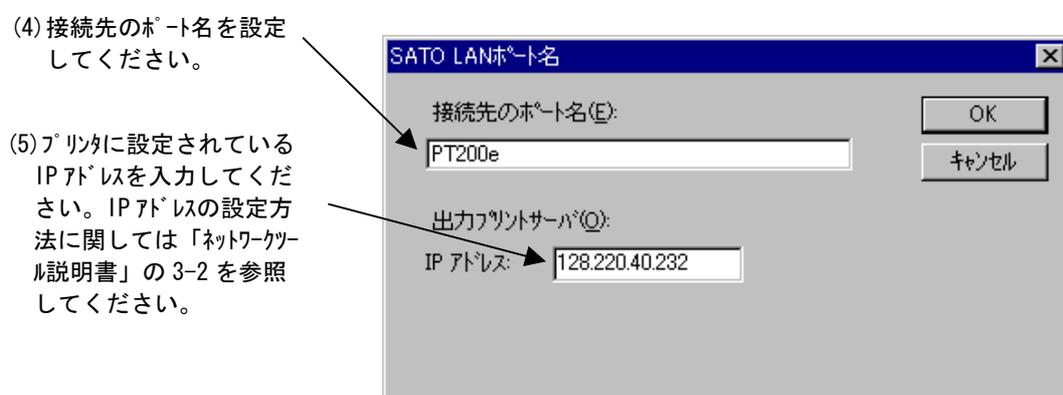


図 8-1-4. 「SATO LAN ポートの追加」ダイアログ

8-2. サト一専用ポート設定手順

図 8-2-1 に「ポート」画面を示します。



図 8-2-1. 「ポート」画面

①シリアル (SATO PT COM) ポート

図 8-2-2 に「SATO COM ポートの設定」ダイアログを示します。

(1)ポートを選択します*。
(2)データビット数を選択します*。
(3)パリティビットを選択します*。
(4)ストップビットを選択します*。
(5)フロー制御を選択します*。
(6)設定を初期値にします。
(7)送信タイムアウト時間を設定します。
(8)送受信間隔時間を設定します。

*) (1)～(5)の設定値はプリンタ側の設定値と等しくしてください。プリンタ側の設定はシリアルインタフェースボードのディップスイッチにて行います。

ポート	: 19200	データビット	: 8
パリティ	: なし	ストップビット	: 1
フロー制御	: なし		

送信タイムアウト(Q): 45 秒
通常印刷用送受信間隔タイム(I): 100 ミリ秒

標準に戻す(B)

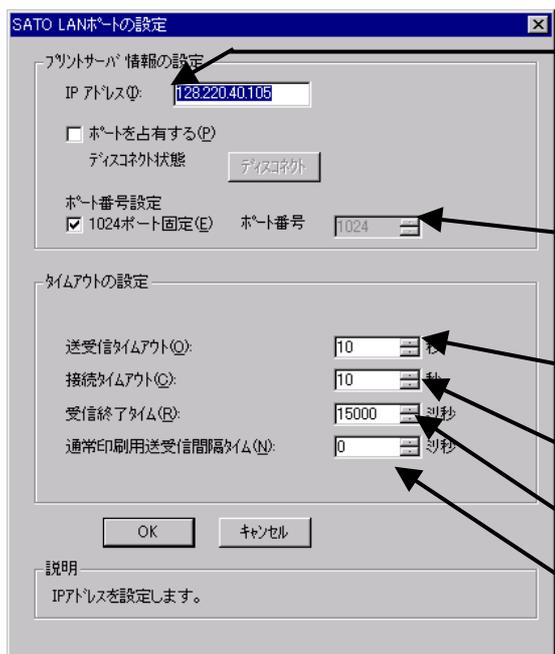
デバイスチェック OK キャンセル

説明
通信速度(ポート)を設定します。初期値: 19200。

図 8-2-2. 「SATO COM ポートの設定」ダイアログ

②LAN (SATO PT LAN TCP/IP) ポート

図 8-2-3 に「SATO LAN ポートの設定」ダイアログを示します。



The screenshot shows the 'SATO LAN Port Settings' dialog box. It is divided into two main sections: 'Printer Information Settings' and 'Timeout Settings'. The 'Printer Information Settings' section includes a text field for 'IP Address' containing '128.220.40.105', a checkbox for 'Port Occupied (P)' which is unchecked, and a 'Port Number' field containing '1024'. The 'Timeout Settings' section includes four spinners: 'Send/Receive Timeout (Q)' set to '10', 'Connection Timeout (Q)' set to '10', 'Receive End Time (B)' set to '15000', and 'Normal Printing Receive Interval Time (Q)' set to '0'. At the bottom, there are 'OK' and 'Cancel' buttons, and a 'Description' box stating 'Set the IP address.'.

(1) ネットワークに接続されているプリンタの IP アドレスを入力してください。IP アドレスの設定方法に関しては「ネットワークツール説明書」を参照してください。

(2) ポート番号を入力してください。範囲は、1～9999 になります。

(3) 送受信のタイムアウト値を設定します。プリンタサーバにデータ送信時、失敗した場合タイムアウト値まで送信を繰り返します。

(4) プリンタサーバへの接続時のタイムアウト値を設定します。

(5) 受信終了時間を設定します。

(6) 送受信間隔時間を設定します。

図 8-2-3. 「SATO LAN ポートの設定」ダイアログ

※WAN 環境で使用する場合には、送受信タイムアウト値が初期値の 20 秒では足りない場合があります。その際には、タイムアウト値を伸ばしてください。